

令和5年3月15日

早春の高温における作物管理について

農業総合センター
専門技術指導員室

●気象情報

高温に関する早期天候情報(2023年3月13日14時30分気象庁発表)によると、関東甲信地方気温では、気温がかなり高い状態が続いています。向こう2週間の気温も、暖かい空気に覆われやすいため高い日が多く、19日頃からはかなり高くなる可能性があります。農作物の管理等に注意ください。

●対策技術

I 共通事項

- ・高温が続くことにより、農作物の生育が早まることが予想される場合は、作業計画の見直しや肥料・農薬等資材の確保に留意する。また、県病虫害防除所の病虫害発生予察情報の収集に努める。
- ・急激な温度上昇により、軟弱徒長気味に生育した農作物は、寒気の一時的な南下による凍霜害が発生しやすくなるため、予め対策を検討しておく。

II 普通作

1 水稻

- ・気温が高いと、浸種日数が例年に比べて短くなるので浸種日数に注意する。また、水温が高いと細菌性病害が発生しやすくなるほか、早期の発芽により計画的な播種が出来なくなる恐れがあるので、水温が15℃以上にならないように水の交換を1日1回行う。
- ・平置き育苗では、出芽までの期間にハウス内の温度が30℃以上にならないよう換気に努めるとともに、遮光シートや反射シートなどを活用し「苗ヤケ」防止に努める。特に、被覆を新しくしたハウスは、曇天続き後の晴天時の温度管理に注意する。
- ・育苗期における高温・高日射条件では、もみ枯細菌苗等の病害、苗の徒長やヤケ苗が発生しやすくなるため、30℃以上の高温や多湿にならないように早めのハウス換気を心掛ける。

2 麦

- ・3月上旬の高温で生育が急激に早まっており、例年よりも茎立期が早まることが予想されるため、適期の追肥を実施するよう留意する。
- ・春先の一年生雑草が一斉に出芽するため、発生が確認されたら、速やかに茎葉処理剤を散布する。なお、麦の生育が進むことにより畝間が麦の葉に覆われると散布の効果が期待できないので注意する。
- ・出穂期も早まることが予想されるので、赤カビ病の防除を適期に実施できるよう生育状況の観察に努める。

Ⅲ 野菜

1 露地野菜

(1) 作物共通

- ・苗の定植に際しては、降雨が少なく土壌の乾燥が続く場合には、降雨後の定植や苗の活着促進のために定植後に株元へのかん水を行う。

(2) ネギ

- ・越冬ネギは、抽苔が早期に発生する可能性があるため、適期収穫に努める。

(3) レタス・ハクサイ

- ・収穫遅れによる規格外品（過熟、抽苔等）の発生を抑えるため適期収穫に努める。
- ・気温が高くなるとアブラムシ類・コナガ等の害虫発生が前進化する可能性があるため、早期発見・早期防除を心掛ける。

2 施設野菜

(1) 作物共通

- ・作物の萎れにより、葉先枯れや葉焼け症状や、尻腐れ果・裂果等の障害果が発生しやすくなるため、施設内温度や土壌水分の適正管理に留意する。
- ・換気作業は、温湿度の急激な変化が起きないように、特に晴天や強風時の乾燥条件下では、一度に開けず、複数回に分けて段階的に少しずつ換気する。
- ・気温が高くなるとアブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類の害虫発生が前進化する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。

(2) イチゴ

- ・気温が高いと生育や果実熟度の進みが早まるため、換気を行ない、温度管理に注意するとともに、適期収穫及び鮮度保持に努める。
- ・低温管理を心掛け、成熟日数をできるだけ長くする。最低温度は厳寒期より1～2℃低めに管理し、日中は20～23℃程度で換気する。
- ・灌水不足は、果実の色が著しく濃くなるとともに、食味低下の原因となり、灌水過多は、果実の糖度低下の原因となるため、着果や葉の伸長状態に応じてこまめな灌水管理を行う。土壌水分は、pF1.8（いばらキッス pF 1.9）を目安とし、pF2.0以上にならないよう灌水を行う。
- ・収穫量が多くなる時期を迎えるので収穫間隔を短くして、過熟果の混入を避ける。

(3) 葉物類

- ・収穫遅れによる規格外品の発生を抑えるため適期収穫に努める。
- ・多湿条件では、ニラの白斑葉枯病など、病害が発生しやすくなるため、施設内の換気を行ない、ハウス内の温湿度管理に注意する。

Ⅳ 果樹

- ・花芽及び葉芽の発育が平年より進んでいることが予想されるため、せん定やせん定枝処理、誘引、摘らいなどの管理作業は、計画的に実施する。
- ・発芽前の休眠期防除は時期が遅れないように注意し、温暖無風の日を選んで確実に実施する。

- ・生育が早まると凍霜害発生危険性が高まるため、今後の気温の推移に注意して、防霜資材は早めに準備する。また、地温を高めて凍霜害発生を防ぐために、既に樹冠下ある敷ワラは除去する。なお、新たに敷ワラをする場合は、凍霜害の発生がなくなる5月中旬以降に行う。

V 花き

- ・日差しが強くなってきており、晴天時には外気温が低くてもハウス内が高温となりやすいため、目標の温度に応じてこまめな換気を行う。また、土壌水分管理にも注意し、必要に応じて適宜かん水を実施する。
- ・アザミウマ類やハダニ類、白さび病等、病害虫の発生が前進化する可能性があるため、ほ場内の残渣や雑草を適切に処理し、観察を怠らず早期発見、早期防除に努める。